

ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの 予防接種を受ける方へ

【苫小牧市健康支援課 ☎ 0144-32-6407】

1 ヒトパピローマウイルスとは

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、人にとって特殊なウイルスではなく、多くの人が感染し、そしてその一部が子宮頸がん等を発症します。子宮頸がんは、国内では年間約10,000人が発症し、年間約2,700人が死亡すると推計されています。

2 ヒトパピローマウイルスワクチンについて

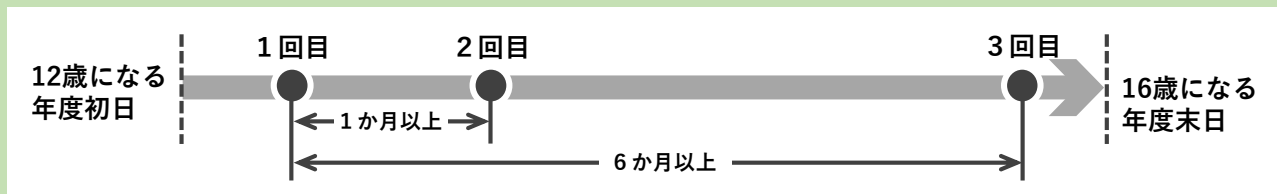
現在国内で定期接種として接種可能なワクチンは、国内外で子宮頸がん患者から最も多く検出されるHPV16型及び18型に対する抗原を含んでいる2価ワクチン「サーバリックス」と尖圭コンジローマや再発性呼吸器乳頭腫症の原因にもなる6型、11型も加えられた4価ワクチン「ガーダシル」の2種類があります。HPV未感染者を対象とした海外の報告では、感染及び前がん病変の予防効果に関して、両ワクチンとも高い有効性が示されており、初回性交渉前の年齢層に接種することが各国において推奨されています。なお、ワクチンに含まれている型以外の型による子宮頸がん発症の可能性もありますので、早期発見のため、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

3 副反応について

副反応としては、注射部位の疼痛、発赤、腫脹などの局所反応と、軽度の発熱、倦怠感などの全身反応がありますが、その多くは一過性です。なお、重篤な副反応の発生頻度は、サーバリックスは10万接種あたり7.8、ガーダシルは10万接種あたり9.7となっています。

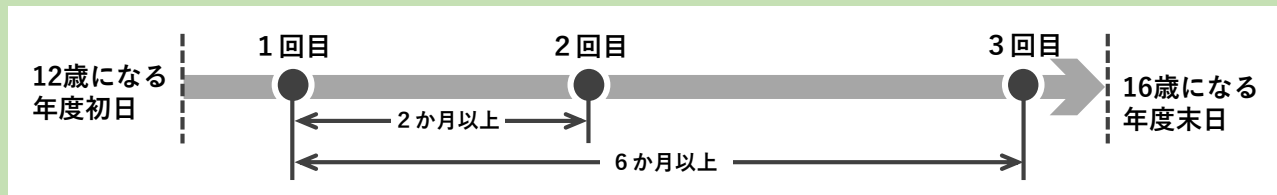
接種スケジュールについて

- 1か月以上あけて2回、1回目から6か月以上あけて3回目を接種



※上記スケジュールで接種できない場合は、1か月の間隔をおいて2回接種した後、1回目の接種から5か月以上、かつ2回目の接種から2か月半以上の間隔をおいて1回接種する。

- 2か月以上あけて2回、1回目から6か月以上あけて3回目を接種



※上記スケジュールで接種できない場合は、1か月の間隔をおいて2回接種した後、2回目の接種から3か月以上の間隔をおいて1回接種する。

《 予防接種救済制度について 》

万が一、定期予防接種が原因で健康被害が発生した場合は、予防接種法に基づく救済制度があります。この救済制度の請求について、厚生労働省が予防接種との因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。

裏面もお読み
ください。

予防接種を受ける前の注意事項

予防接種を受ける前のチェック項目

- お子さんの体調はよいですか。
- 今日受ける予防接種について、必要性や効果及び副反応など理解していますか。
わからないことがあれば、質問をメモしておきましょう。
- 『母子健康手帳』は持っていますか。
- 予診票の記入は済みましたか。
- 保護者の方が同伴できない場合には、代理人の方に委任状を渡しましたか。

次のような方は予防接種を受けられません

- 接種会場（医療機関）で測定した体温が37.5°C以上のお子さん
- 重とくな急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
- その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあるお子さん（※「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。）
- その他、医師が不適当な状態と判断した人

次のような方は予防接種を受ける前にお医者さんとよく相談してください

- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けているお子さん
- 予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られたお子さん及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られたお子さん
- 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
 - けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、その後起こったか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。
- 過去に免疫不全の診断がなされているお子さんや近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん（例えば、赤ちゃんの頃、肛門の周りにおできを繰り返すようなことがあった方の場合）
- 外傷等を契機として、原因不明の疼痛が続いたことがあるお子さんや、以前にワクチン（HPV以外も含む）を接種した際に激しい疼痛や四肢のしびれが生じたことのあるお子さん

予防接種を受けた後の注意事項

- HPVワクチン接種後に血管迷走神経反射として失神があらわれることがありますので、失神による転倒を防止するため、注射後の移動の際には保護者や医療従事者の方が付き添うようにしてください。
- 接種を受けたあと30分間程度は、体重を預けられるような場所で座らせるなどした上で、なるべく立ち上がらないようにし、接種した医療機関でお子さんの様子を観察するようにしてください。
- 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- 接種当日は、激しい運動は避けましょう。
- 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- 異なるワクチンの予防接種を受けるまでに必要な間隔は次のとおりです。

※令和2年10月に接種間隔が改定され、生ワクチン（注射）のあとに生ワクチン（注射）を接種する場合以外は、制限がなくなりました。

異なるワクチンの接種間隔パターン

※以下のパターンは、あくまでも異なるワクチンを接種する場合の接種間隔です。
同一ワクチンの接種間隔は、各ワクチンごとに定められた接種間隔に従ってください。

